



## 九州交運労協「第32回定期総会」

# キーワーカーとしての矜持を胸に 持続可能な交通運輸・観光サービス産業の構築をめざす



挨拶をのべる芦原議長

九州地方交通運輸産業労働組合協議会（九州交運労協）は11月10日、福岡市で「第32回定期総会」を開催し、JR九州労組から9人が代議員として出席した。

冒頭、幹事会を代表して芦原秀己議長（JR連合九州地協議長・JR九州労組中央執行委員長）が挨拶し、キーワーカーとしての矜持を胸に、日夜安全・安定輸送の確保に尽力する組合員に謝辞を述べるとともに、1年間の九州交運労協の活動を振り返り、代議員に対して真摯な討論を要請した。

また、来賓として出席した住野敏彦交運労協議長からは、交運労協が抱える足下の政策・組織課題と解決に向けた方向性が示された他、この間の九州交運労協の活動に謝意が示された。

議事では、北村公次事務局次長（JR連合九州地協オブザーバー・JR九州労組中央執行副委員長）が、2021年度活動経過報告、決算報告、会計監査報告を行い、それぞれ満場一致で承認された。その後、議案審議に入り、第1号議案「2022年度活動方針案」、第2号議案「2022年度予算案」、第3号議案「2023年度暫定予算案」が提案され、挙手による議決手続きを経て満場一致で採択された。



方針案を提起する北村事務局次長

2022年度活動方針では、これまでの政策課題の解決に向けた取り組みや業種別部会の取り組み、労働条件改善の取り組みに加え、新たに男女平等参画推進にも取り組む方針が示され、九州交運労協に集結する13構成組織、2万2千人が一致団結して奮闘していくことを確認した。

役員改選では、芦原議長が退任し、古賀孝治議長（私鉄総連九州地方連合会執行委員長）、高田章男事務局長（運輸労連九州地方ブロック連絡会議事務局長）をはじめとする役員を選出。JR連合からは、北村事務局次長が副議長に選出された。総会宣言を採択後、最後に古賀新議長の音頭で団結がんばろうを三唱し、2022年度幹事会体制がスタートした。



当日の総会会場の様子



新議長に就任した古賀氏(中央)